

令和 6 年 4 月 2 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K03422

研究課題名（和文）日本・韓国・台湾における学生相談が心理専門職の専門性養成に与えた影響の比較検討

研究課題名（英文）A Comparative Study of the Influence of Student Counseling on the Professional Development of Psychologists in Japan, South Korea, and Taiwan

研究代表者

伊藤 直樹 (Ito, Naoki)

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：50327087

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、韓国及び台湾に焦点を当て、学生相談・学生支援の発展が心理専門職の専門性養成に与えた影響について明らかにすることを目的として行われた。文献研究の結果から、韓国、台湾とも自国の文化的・社会的背景に着目した研究、自国の文化の影響の海外との比較、西欧の研究で得られた知見を自国に適するよう修正する研究が多く行われていることが見出された。さらに、両国の学生相談機関におけるインタビュー調査を実施し、文献研究により得られた知見を補完するとともに、学生相談の実情を確認した。その結果、両国における学生相談・学生支援の発展が心理専門職の専門性養成に深く関わっていることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、歴史的・文化的に関連が深いにもかかわらず、学生相談領域において、これまで重視されてこなかった韓国および台湾に焦点を当て、学生相談の発展が心理専門職の専門性養成に与えた影響について知見を得たことにある。従来、日本における学生相談領域の研究は、学生相談の歴史やその発展経緯が日本とは大きく異なる西欧、特にアメリカの学生相談をもとにするものが大半であった。今後、日本における学生相談の発展や心理専門職の専門性養成を考える場合、東アジア地域との比較はもとより、これまで着目されてこなかった国々との比較検討を積極的に行うことの必要性を指摘したことが本研究の意義といえる。

研究成果の概要（英文）： This study was conducted to clarify the influence of the development of student counseling and student support on the professional development of psychologists by focusing on student counseling in South Korea and Taiwan. From the results of the literature reviews, it was found that many studies focused on the cultural and social backgrounds of the countries, compared the influence of their own culture with that of foreign countries, and modified the findings of Western studies to suit their own countries in both countries. Furthermore, interviews were conducted at student counseling centers in both countries to complement the findings of the literature reviews and to confirm the actual conditions of student counseling. The results suggest that the development of student counseling and student support in both countries is deeply related to the professional development of psychologists.

研究分野：学生相談

キーワード：学生相談 学生支援 専門性養成 国際比較 東アジア

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

学生相談領域においては、その歴史や発展経緯が日本とは大きく異なる西欧、特に、アメリカの学生相談をモデルとし、また、研究上の視座とすることが大半であった。一方、東アジア地域のうち、日本と歴史的・文化的に関連が深く、日本と同様、第二次大戦後に学生相談が始まり、現在、学生相談や心理専門職の専門性養成が進展している状況にある韓国及び台湾に焦点を当てることはほとんど見られなかった。例えば、台湾は、日本より遥かに早く、アジアで初めて心理専門職の国家資格化を実現した歴史があり、韓国では、現在、既存の心理専門職の学会資格を踏まえて、国家資格化に向けた議論がなされている。

こうした状況を踏まえれば、これまでと同様、西欧やアメリカ中心の研究のみを続けることは、研究の発展の方向性を狭め、結果として、日本における学生相談の発展や心理専門職の専門性の発展にとって大きなマイナスにつながりかねないと考えられた。

2. 研究の目的

本研究は、韓国、台湾における学生相談の発展が心理専門職の専門性養成に与えた影響について、各国の学生相談の発展の経緯を踏まえたうえで検討を加え、その結果を日本の状況と比較することにより、日本における学生相談の今後の発展の方向性について示唆を得ることを目的とする。具体的には、両国における学生相談・学生支援に関する文献研究を行うとともに両国の学生相談機関を訪問し、学生相談の現状に関する資料を得るとともに、学生相談実務担当者を対象としたインタビュー調査を実施する。これらにより、両国における学生相談の発展が心理専門職の専門性養成に与えた影響について明らかにすること、日本の学生相談が今後の心理専門職の専門性養成に寄与するための方策について示唆を得ることを目的とする。

3. 研究の方法

まず、韓国・台湾における近年の学生相談・学生支援を扱った研究論文を収集し、その文献研究を行う。その際、英語論文だけでなく、ハングル及び中国語により書かれた両国の大学生を対象に実施された研究論文も対象に含める。これらの文献研究により、両国における学生相談・学生支援における研究課題とその特徴を明らかにするとともに、それらが専門性養成に与えた影響について検討を加える。

次に、両国の学生相談機関を訪問し、学生相談の現状に関する資料を入手するとともに、相談実務担当者を対象としたインタビュー調査を実施する。これにより、文献研究で得られた知見を確認するとともに、その補完を行う。さらに、両国における学生相談の発展がその専門性養成に与えた影響について資料を得たうえで、日本の現状との比較を行い、日本における専門性養成の課題について示唆を得る。

4. 研究成果

文献研究からは以下のような成果が得られた。

まず、韓国における学生相談・学生支援の近年の研究課題に関する文献研究の結果、「学生相談・学生支援のための介入方法に関する研究」、「カウンセリングや心理的支援への態度、及びスティグマに関する研究」、「海外との比較・欧米との文化差に関する研究」、「インターネットの利用に関する研究」、「特定の特性に焦点を当てた適応に関する研究」の5つの研究課題が見出された。このことから韓国では自国の文化的・社会的背景に着目した研究、自国の文化の影響の海外との比較、西欧の研究で得られた知見を自国の文化に適するように修正を行う研究が多く行われていることが見出された。

次に、台湾における学生相談・学生支援の近年の研究課題についての文献研究の結果、「大学生の学生生活の状況に関する研究」、「大学生の精神的健康に関連する諸要因に関する研究」、「学生相談機関の利用促進及び相談・支援の質的向上に関する研究」、「大学生の家族関係に関する研究」、「大学生を取り巻く社会的問題に関する研究」の5つの研究課題が見出された。このことから台湾においても自国の文化的・社会的背景に着目した研究が多く行われていることが見出された。

さらに、韓国のソウル大学校、延世大学校及び台湾の国立台北大学の学生相談機関における訪問調査から得られた学生相談の現状に関する資料及び相談実務担当者を対象としたインタビュー調査からは、上記の文献研究により得られた知見が補完されるとともに、両国の大学における学生相談の実情について直近の資料が得られた。その結果、両国における学生相談・学生支援の研究課題が学生相談における心理専門職の専門性養成に深く関わっていることが示唆された。

上記のように、本研究の意義は、歴史的・文化的に関連が深いにもかかわらず、学生相談領域において、これまで重視されてこなかった韓国および台湾に焦点を当て、学生相談の発展が心理専門職の専門性養成に与えた影響について知見を得たことにある。従来、日本における学生相談領域の研究は、学生相談の歴史やその発展経緯が日本とは大きく異なる西欧、特にアメリカの学生相談をもとにするものが大半であった。今後、日本における学生相談の発展や心理専門職の専

専門性養成を考える場合、東アジア地域との比較はもとより、これまで着目されてこなかった国々との比較検討を積極的に行うこと、自国の文化や社会的背景が学生相談の発展や心理専門職の専門性養成の発展に与えた影響を検討することが必要であると考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 伊藤 直樹	4. 巻 43
2. 論文標題 韓国における学生相談・学生支援に関する研究動向	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学生相談研究	6. 最初と最後の頁 245 ~ 254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57289/jasc.43.3_245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 直樹	4. 巻 44
2. 論文標題 台湾における学生相談・学生支援に関する最近の研究動向	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学生相談研究	6. 最初と最後の頁 43 ~ 52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57289/jasc.44.1_43	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------